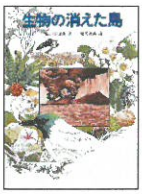
西村　豊／写真・文
あかね書房
2006年　￥1200

干し柿

丁寧な里山暮らしの食文化を美しい写真を通して楽しめます。秋には、干し柿作りに挑戦したくなるかもしれません。



田川　日出夫／文
松岡　達英／絵
福音館書店
1987年　￥1300

生物の消えた島

1世紀前の大噴火で生命が死に絶えた島に新たな生物の芽がどうやって来るか探る…。いのちの力強さを感じることができる本。

桃源郷ものがたり

中国の古代の大詩人陶淵明の名作を日本語で再現したもの。戦争のないのどかで平和な社会を求めた理想郷の物語です。

松居　直／文
蔡　皋／絵
福音館書店
2002年　￥1600

花さき山

1969年発行以来、長く読み継がれているロングセラー。やまんばから聞かされる話に、あやは何を想うのか。本当の優しさとは、誰かのために生きるとは…。自問自答させられる一冊。

斎藤　隆介／作
滝平　二郎／絵
岩崎書店
1969年　￥1300

ユージーン・トリビザス／文
ヘレン・オクセンバリー／絵
こだま　ともこ／訳
冨山房
1994年　￥1400

3びきのかわいいオオカミ

ご存知「3びきのこぶた」を愉快にひねった話。ページをめくるたびに、過激さが増してくるプロセスが、実におもしろい！ただ、笑えるパロディというだけでなく、今の世の中のさまざまなことを思い起こさせます。

現在購入できる版の出版年を掲載しています。
価格は2019年2月現在の本体価格です。

掲載については出版社の許諾を得ています。
無断で転載することを禁じます。

2019年3月発行
大洲市立図書館

子供とともに 本をひらこう 未来のページ
（『第2次大洲市子供読書活動推進計画』より）

ボランティアおすすめ うちどく絵本リスト

小学校 高学年版

「うちどく(家読)」とは、家族で同じ本を読み、その本について話し合うことです。
「うちどく」で家族のきずなを　深めましょう！

毎月第3日曜日は“うちどくの日”

●うちどくをはじめるなら、まずは絵本がおすすめ！●

絵本は短い時間で読める上に、文章や絵、読む年齢によっても様々な感想を持てるので、幅広い年代が一緒に読む「うちどくの本」として最適です。そこで、市内の学校や施設で読み聞かせ活動をされているボランティアのみなさんに、家族で読んでほしい本を、絵本を中心におすすめしてもらいました。

おなみだぽいぽい

いやなことや他人の悪意、理不尽なことにつぶされそうになって、つらい日々を送ることもある。つらさに押しつぶされる前に、そんな気持ちは涙と一緒にぽいぽいと捨てちゃおう。そうすれば、次の1歩が楽に踏み出せる。

ごとう　みづき／[作]
ミシマ社
2017年　￥1500

マイケル・ホール／作
上田　勢子／訳
子どもの未来社
2017年　￥1500

レッド
あかくてあおいクレヨンのはなし

本当は青いクレヨンなのに赤いラベルをはられた「レッド」。中身と外見が違う…。本当の自分自身を発見することの大切さ、認めてあげる大切さを描いた一冊です。

寮 美千子／編・訳
篠崎 正喜／画
ロクリン社
2016年 ￥1800

父は空　母は大地

インディアンの首長のスピーチを絵本にしたもの。自然と人間の共存を考えさせられる一冊。シンプルであるが故に、心に残る。

平田 昌広／文
野村 たかあき／絵・原案
講談社
2014年 ￥1400

あめふりうります

「猫が顔を洗うと雨が降る」という言い伝え。これを使ってねこきちは商売を始めます。そこに次々とお客が現れ大変なことに…！

やさいの花

なすやじゃがいも…野菜はよく食べて知っているけれど、どんな花が咲くのかな？アスパラガスにニンジン、ゴマ…みんなみんな、実は花が咲くんだね。あまり見かけない野菜の花、知っていると、友達に自慢したくなるかもね。

埴　沙萌／写真
嶋田　泰子／文
ポプラ社
2016年 ￥1500

二番目の悪者

「これが全て作り話だと言い切れるだろうか？」で始まる本作。登場するのは動物のみだが、読み手に、何が悪かを問いかけてくる。

林　木林／作
庄野　ナホコ／絵
小さい書房
2014年 ￥1400

松本　春野／文・絵
岩國　哲人／原作
講談社
2015年 ￥1300

おばあさんの しんぶん

新聞少年のてっちゃんに新聞を読ませてくれた老夫婦。そのおばあさんが亡くなり、てっちゃんが知った思いがけない事実…。純粋な優しさが胸にしみ、素敵な絵もあり、実話ということからもお話の深みが感じられます。

くどう　なおこ／さく
ほてはま　たかし／え
小峰書店
2013年 ￥1400

ちいさなはくさい

畑から一人はみ出して芽を出した小さな白菜。その成長を見守る畑のそばの柿の木。小さくてけなげな白菜が春を迎えるまでの心温まるお話が、胸にじいんとせまってきます。

むらの英雄

自分たちの思い違いに気付かずいなくなった仲間を思う男たち。「なんで気が付かないの」と笑いを誘う一方、仲間を思う気持ちに心が温かくなる作品です。

わたなべ しげお／文
にしむら しげお／絵
瑞雲舎
2013年 ￥1400

さがしています

５・６年生の平和学習、修学旅行の前に保護者も一緒に読んでほしい。“戦争”“平和”普段の生活の中ではなかなか家族の中でも話題にならないことなので、この本をきっかけに…。

アーサー・ビナード／作
岡倉　禎志／写真
童心社
2012年 ￥1300

くすのき　しげのり／作
ふるしょう　ようこ／絵
学研
2012年 ￥1300

ええところ

誰もがそれぞれに「いいところ」を持っている。否定的な感情に流されやすい人必見の絵本。家族でお互いの「いいところ」を話し合うきっかけになればいいな。

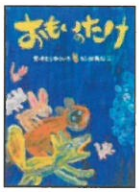
荒井　良二／著
偕成社
2011年 ￥1300

あさになったので　まどをあけますよ

新しい１日をむかえるために窓をあける子どもたち。なにげない日々の繰り返しの中にこそ生きる喜びがある。いつもどおりの朝を迎えられることのかけがえのなさが色彩からも伝わってきます。

おもいのたけ

洞窟の中にある奇妙なキノコに動物たちが次々と“自分の思い”を叫んでいきます。すると、キノコはどんどんふくらんで…。オンドロロン、オンドロロンと不思議な世界が広がります。



きむら ゆういち／文
田島　征三／絵
えほんの杜
2012年 ￥1333

ぼくがラーメンたべてるとき

ぼくがラーメンたべてるとき、○○が××している…次々続いて、世界のどこかで争いや悲しい出来事が起こっているとつながる。単調な本だが、考えさせられることぎっしりの１冊。

長谷川　義史／作/絵
教育画劇
2007年 ￥1300